

- 人が集い、交流する、賑わいあるまち・新長田をめざして (P.1-2)
- こうべまちづくり学校<専修講座>が始まりました! (P.2)
- 南京町の空間形成について① (P.3)
- 神戸らしい眺望景観10選を訪ねて「光山寺からの眺め」ほか (P.4)
あーばんとーくの感想をおよせ下さい!
発行: こうべまちづくり会館
<http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>

人が集い、交流する、賑わいあるまち・新長田をめざして 若松公園に鉄人28号の巨大モニュメントを ~KOBE 鉄人 PROJECT~

“KOBE 鉄人 PROJECT”は、ロボット漫画の金字塔「鉄人28号」や全60巻にもわたる大河歴史ロマン「三国志」をはじめ数々の名作を生み出した故横山光輝氏の偉業をたたえ、その出身地である神戸の新長田の地にモニュメントや記念館を設立しようという取り組みです。



このプロジェクトは、新長田地区の活性化事業として平成18年度から地元の皆さんを中心に取り組みが進められており、神戸復興への想いを強くお持ちの皆様から広く寄付を募り、その募金を基にJR新長田駅南地区に巨大な「鉄人28号のモニュメント」を創り上げ、大きな話題と街の元気を発信するものです。

また、「(仮称)三国志ミュージアム」の建設や、アジアをテーマにしたまちづくりなどとあわせて、まちの賑わい拠点をつくりだし、広域からの集客を促進していく取り組みとして、今年の7月に内閣府から認可をうけた「神戸市中心市街地活性化基本計画」における主要事業の一つに位置付けられています。

■これまでの取り組み

18年6月の「鉄人28号生誕50周年記念特別展」では、作者の横山光輝氏が神戸出身であることを発信し、多くの市民に興味と共感を呼びました。

同年11月には、プロジェクト実行委員会を立ち上

げ、「横山光輝三国志の世界」を開催し、全国から大きな反響がありました。その後も、JR新長田駅前広場から地域商店街にかけて、キャラクターバナーや100を超える商店での募金箱の設置など熱のある地域活動が展開されています。

19年9月には、更なる推進体制を確立するため実行委員会のメンバーを中心としたNPO法人「KOBE 鉄人 PROJECT」の設立が認証されました。現在はこのNPOが地元の新長田を中心に資金集めに取り組んでいます。

また、昨年の夏には、地元の子どもたちによる“三国志ねぶた”巡行をメインにした「三国志祭」を開催し、新長田のまちに新たな地域文化を生み出しました。この三国志祭は今年の夏も引き続き開催され、元気な子供たちが“三国志ねぶた”を曳き、すっかり地域の祭りとして定着しました。



■今後の予定

鉄人28号モニュメントの建設は、NPO法人KOBE 鉄人 PROJECTが事業主体となり、21年春に新長田駅の南西にある若松公園内に設置を予定しています。阪神淡路大震災からの復興のシンボル、そして広域からの強力な集客力を持つ神戸の新しい観光資源を創造する、都市型の地域活性化事業の取り組みです。

また、新長田の再開発エリアの南部には「三国志ミュージアム」の建設が予定されており、現在、地元で基本構想を策定中です。ミュージアムでは、全国に幅広い年齢層のファンをもつ日本の三国志文化を一堂に集め紹介するとともに、イベント開催や情報発信による全国的なコミュニティの形成を目指します。

この取り組みによって、新長田地区が世代を超えて愛され続ける三国志を通じた世代間コミュニケーション高揚の場となり、さらに三国志のメッカとして認知され、三国志関連産業といった新たなビジネスチャンスの創生などの効果が期待されています。

現在、KOBE 鉄人プロジェクトでは、モニュメント建設のための資金として、多くの皆様からの協賛を募っています。

詳しくはプロジェクトのホームページをご覧ください。

<http://www.kobe-tetsujin.com>

(都市計画総局総務部経営管理課)



平成20年度

こうべまちづくり学校〈専修講座〉が始まりました！

「こうべまちづくり学校」は、安全・安心で、市民が主役のまちづくりを進めるために、“協働と参画のまちづくり”について、わかりやすく、総合的に学び考える場となることを目指して、毎年開校しています。専修講座は、コースに分かれてより専門的に学ぶための講座です。

平成20年度は、9月2日を皮切りにA～Gの7コースが開かれています。



9月2日のBコース「安全で安心なまちをつくる防災コース」第1回は、「災害のおそろしさ」について、河田恵昭氏（京都大学防災研究所巨大災害研究セク

長・教授）のお話を聴きました。サイクロン、地震など近年の災害事例と、その教訓を今後の災害対策にどう生かすべきかが示されました。また、近い将来起こるであろう、巨大地震、津波、高潮、洪水、土砂災害等とその対策の現状、災害に備えた地域コミュニティの強化の必要性などについて説かれました。



9月4日のAコース「ちえびくろの活用講座」第1回は、「まちづくり活動のヒントを探る～話し合いからヒントをつかむ(1)～」と題して、松原永季氏（スタチオ・カタリスト）、西修氏（ワークショップ研究会）、東末真紀氏（神戸まちづくり研究所）の指導のもとに、数グループに分かれて、ワールドカフェという話し合いの手法を体験しました。



9月6日の「まちに刻まれた土木を訪ねる」第1回は、橋の科学館で、明石海峡大橋を中心とした本四架橋について建設の経緯やその役割について、川戸彰氏（本州四国連絡高速道路株）のお話を聴き、館内展示を見学しました。その後、明石海峡大橋に移動し、桁下の点検用通路を主塔付近まで歩き、橋の構造や各部の役割などについて説明を受けた後、舞子海上プロムナードを見学しました。



■南京町の生い立ち

1868年に神戸が開港し、外国人居留地が設けられました。当時、清国との間には通商条約を結んでいなかったため、華僑は居留地内に住むことを許可されず、西隣に住み始めたのが南京町の始まりとされています。最盛期の1935年当時、神戸で最も国際色豊かな市場としてにぎわっていました。

1945年の神戸大空襲で全焼し、戦後は主に進駐軍相手の歓楽街となりましたが、その名残もあって退廃化が進み、1970年代までは路地の舗装もされず、周辺には船員向けのバーが立ち並んだ時期もありました。

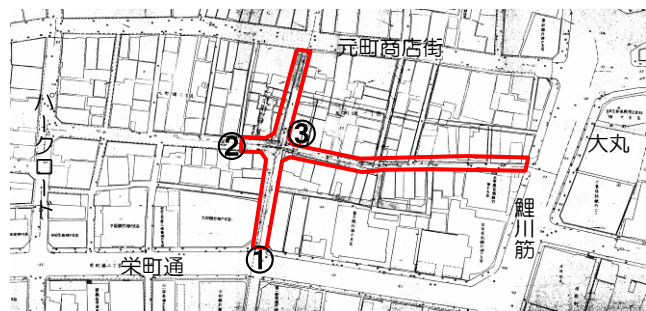
■南京町復興計画

こうした中で、戦前の南京町に郷愁を覚える人たちの間で復興しようという話しが持ち上がり、神戸市の区画整理事業に合わせて、「南京町復興計画」を推進することになりました。

今では、横浜、長崎とともに日本三大中華街として有名な神戸南京町ですが、高々30年近く前までは、まだ中華風の店舗も数えるほどしかなくて、道幅も狭く、電柱が林立し、車やバイクが駐車する裏通りといった風情の街でした。下の写真は1981年6月に、大丸側から西を向いて撮影したものです。



1981年7月4日付夕刊紙には次のような記事が載っています。『南京町復興決まる』神戸大空襲で壊滅した形のミナト神戸の中華街「南京町」が、4日、復興されることに決まった。二層の緑がわら屋根を持つ豪華な楼門が、町の東と南の入り口に立ち、昔ながらの石畳の道路のわきでは、中国風の街路灯・ランタンの灯がゆれる。異国情緒をたっぷり盛り込んだ計画図も完成、ことし九月から着工する運び。来春には「異人館街」と並び神戸を代表する新名所に生まれ変わる。」



□ 南京町復興計画の主要道路

■まちの骨格の形成

この事業が進められていた当時の街のエリアは、現在の田の字形ではなく、まだ西側に延びる道路を含まない横Tの字形でしたが、この計画により、現在の南京町の基本的な骨格がつけられたといえます。

1987年ごろには、西側のエリアでも道路整備がされ、それを機に西の楼門や街灯も設置され、現在の南京町が形成されました。

シンボルゲート・・・①

南と東の入り口に置かれた中国風のデザインの楼門ですが、街のゲートとして地区エリアの領域感を高めるものとなっています。



プロムナード・・・②

歩行者を優先し、かつての石畳を再現した道路と中国風ランタン、区画整理により建て替えられた新しい店舗の中華風外装、店先のにぎわいなどが醸し出す“シークエンス”（移動にともなって連続して生起する景色）として街の軸線となっています。



チャイナプラザ・・・③

街の中央部に確保された憩いの広場、添景のあずまや、街の案内板、“十二支+パンダ”の車止めなどで構成された「ハレの場」です。空間にメリハリを付け、イベントにも対応できる重要な空間となっています。



(以下、次号)

神戸らしい眺望景観 10 選を訪ねて 「光山寺からの眺め」

～ 神戸には、このような美しい農村風景があります。～



北区大沢町日西原（おおぞうちょうひさいばら）にある光山寺からの眺めは、手前に棚田が広がり、遠くには、谷あいに入母屋づくりの伝統家屋が点在する、美しい農村風景となっています。

ここは、市民公園として地域に親しまれている場所で、ハイキングコースのポイントの1つにもなっています。

また、この地域は、ホテルが生息する河川もあり、人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例に基づいて、日西原農村景観保全形成地域に指定されており、住民のみなさんが一体となって定期的に清掃等の管理活動を行っています。

光山寺付近には国指定の重要文化財である豊歳（とよとし）神社や天満神社など多くの古寺や古社があり歴史に触れることもできます。自然や歴史がいっぱい詰まった魅力あるこの大沢町をぜひ訪れてください。

（都市計画総局計画部景観室）



まちづくり会館展示のお知らせ

1 階オープンギャラリーの予定

期間	テーマ・内容	主催者
9月	悪徳商法、生活情報センター案内パネル展	神戸市市民参画推進局消費生活課
10月	防犯パネル展（前半）／「東南海・南海地震に備えて」（後半）	神戸市危機管理室

地階ギャラリーの予定

期間	テーマ・内容	主催者
9月25日(木) ～ 30日(火)	デジタル書作家協会 秋の展示会《デジタル書道》	デジタル書作家協会
10月3日(金) ～ 7日(火)	アルペジオ合同教室作品展《油彩水彩等》	アルペジオカルチャー
10月9日(木) ～ 14日(火)	神戸写遊会 写真展	神戸写遊会
10月17日(金) ～ 21日(火)	第26回神戸帆船模型の会展《模型》	神戸帆船模型の会
10月23日(木) ～ 28日(火)	第20回遥洋会油絵展	遥洋会

展示時間：1階、地階いずれも午前10時～午後6時（水曜日休館） ※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



こうべまちづくり会館

開館時間：午前10時～午後6時（水曜日休館）

場所：元町商店街4丁目西端の南側角

地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分

神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分

「西元町」東口から東へ5分

JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分

〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546

ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター（まちづくり会館4F）

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談

受付：午前10時～午後6時（水曜日休館）

ただし、印刷は5時まで

電話・FAX：078-361-4565